

らーめん八角、愛される“ファミリー”の絆・原点ここにあり

はりまラーメン業界のトップを走る「らーめん八角」。

姫路の小さな屋台から、20年あまりで県内に異業態含めグループ33店舗を構えるまでに成長して

なお“八角ファミリー”の絆は深まるばかりだ。

輪の中心にはいつも大西社長の笑顔がある。はりまで生まれ育ち、この道一筋の40歳。

はりまのラーメン応援実行委員会のメンバー高原氏がその人となりに迫った。

株式会社 八角
代表取締役 大西 慎也氏



高原 40歳にしてこれだけのお店を持たれているのが本当にすごいですね。

大西 19歳でこの道に入って21年。自分でもこうなるとは思っていませんでした。無我夢中で目の前の目標をクリアしてきて、結果こうなったんです。そして、まだ決して順調だとも思っていないんです。商売に対してはいつも慎重で小心者です。

高原 そんな社長がどんな幼少期、学生時代を過ごされたのか興味があります。

大西 父と母、姉と妹の5人家族でした。両親は店をやっている家に、おらず、兄妹3人だけで過ごすことが多かったですね。性格はとにかく活発でした。でもワルではなかったんです。学校ではヤンキーから真面目な子、女子まで全員と友だちになって、とにかく皆で遊んで騒ぐのが大好きでした。

高原 まさに八角ファミリーの原点だと感じます。私という小・中・高校と部活一筋で、いつも同じメンツとつるんでいましたから、まるで正反對です。

大西 そうした学生時代を過ごしながら飲食の道を目指しました。父親には「あまいもんじゃない」と言われましたが、私も頑固に信念を貫いて、「そんなに言うならワシの店をやってみい」「やっ

うやく堂々と夢を語れるのだと思います。私ももっと成功して、後輩たちに夢を語れる人になりたいですね。

高原 最後に会社への熱い思いをお願いします。

大西 会社は1人では大きくできず、皆の力が必要です。グループが大きくなっても決してピラミッド型の組織にはならず、八角ファミリーとして絆を深め、一致団結していきます。大きな目標は「兵庫県といえばらーめん八角」と言われるようになること。これから30年計画で達成できるよう頑張ります。

高原 大西社長の人となりあってこそその八角ファミリーで、その精神が素晴らしい会社として結実していると実感しました。くれぐれもお体に気を付けて、ますますのご活躍を期待しています。

たるわい」みたいな感じで、この世界に飛び込みました。やがて中学時代の友人が集まり、現在でも社員として助けてくれてます。つくづく人には恵まれました。

高原 ご自宅ではどんなパパなのでしょう。30歳で結婚されて、現在は奥さんとお子さんの3人家族だと聞きました。とても仲が良いそうですね。

大西 今年で結婚10周年なんです。子どもは男の子で今年9歳になります。自分が小さい頃に親が近くにいなかった分、子どもと過ごす時間は大切にしたいと、休みの日は必ず家族一緒に映画や買い物に出かけるようにしているんです。

高原 家族を大切にする姿勢が会社にも表れていると感じます。一方で、ご趣味はいかがでしょう。大西社長は車の好きですよね。同じく車好きの私としても、社長の愛車遍歴をお聞きしたいです。

大西 まず19歳で当時新型のソアラを新車で買って気が済むまで改造しました。その次はビートル。これも納車後すぐポルシェのように改造して注目的でした。珍しくて町中で写真を撮られましたし、雑誌にも載せさせてくれと言われました。それからはベンツをCクラスから乗り継いで、現在はSクラスが愛車です。

高原 すべて新車というのがすごいですね。



私は中古車が好きで乗り換えてきましたから、これもまるで正反對です。次はどんな車を狙っているのでしょうか。

大西 ベンツのSクラスが、最近ゴルフを始めたのでたくさん荷物を積める四駆がいいかなとか、いろんな選択肢がありますので想像するだけで楽しいですね。またいつかマイバッハに乗りたいたいですね。

高原 車だけでなく服装にもセンスを感じます。いつもスーツで決められていますね。

大西 そこはこだわりです。少し遊びがあったスーツをオーダーメイドで仕立てて、ネクタイは必ずするよう心がけています。服装をきちっとしていることで自分を律することができ、取引先さんからの信頼も違います。

高原 座右の銘を教えてください。

大西 「夢を語らず目標を持って」です。夢に向かっていきなりジャンプするのは間違っています。大切なのは、目の前の階段を一段ずつ昇っていくことだと考えています。弊社も目標達成の繰り返しで気がつけばこの規模になりました。成功者になって振り返ったとき、よ



【Interviewer】
まるはり出版元 株式会社プラトゥー
代表取締役 高原 成輔氏